

食
べ
た
い
も
の
を
作
っ
て
た
く
さ
ん
の
人
と
分
か
ち
合
え
れ
ば

いしい きぬえ 石井 絹江

石井農園 代表

昭和27年（1952）、浪江町生まれ。
高校卒業後、浪江町役場勤務。役場職員として津島診療所に事務の勤務中、
震災を体験。2015年に避難先の福島市で石井農園をスタート、えごまなどの
加工品が全国でも評判となっている。

震災後、町民の葛藤を知るたび、42年間お給料をいただいた町に恩返ししたい
気持ちが高まり、退職したら浪江のために活動しようと心に決めていました。
退職金を使って石井農園を開業。現在は浪江も含めて5つの農場を持ち、
それぞれの土に合わせたさまざまな作物を作っています。

浪江の仲間と故郷への愛を繋ぎたいという思いが強く、それが原動力です。
「とにかく自分たちが食べたいものを作って、その美味しさをたくさんの人と
分かち合う」。そこにとことんこだわって、前だけを見て進んでいます。

農園の看板商品はエゴマです。

若い人とともに「日本一」を目指し、栽培、加工をしています。

2020年は「浪江の道の駅で私たちの加工品を販売したい」という願いも叶え、
軌道に乗り始めたという感じですね。

震災の時は全国から支援をいただきましたが、何よりも温かいものをみんなに
食べさせたくて。その時の思いが今の活動の原点になっているかもしれません。
町民の暮らしは大きく変わり、思いをひとつにするのは簡単ではないですが、
ともに手足を動かし、故郷の味を未来に残していきたい。震災から10年を迎え、
これからもより自分に嘘のない人生にしていきたいと感じています。



農薬や化学肥料を使わない農法で栽培。
小さな機械と手作業で加工し、商品化している